

早口説（ハヤクドウチ）

本調子

尺	○	工	五	工	尺	上	四	乙	四	尺	上	四	○	四	合
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

尺	○	工	五	工	尺	上	四	乙	四	尺	上	四	○	四	合
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

四	○	四	乙	四	○	合	○	乙	四	尺	上	四	○	四	合
	さ	てい	む	うち		ゆ	や	う	ぐ	る	ま	ぬ			

尺	○	工	五	工	尺	上	四	乙	四	尺	上	四	○	四	合
	み	ぐ	り	み	ぐ	り	てい	あ	ら	た	ま	ぬ			

四															
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

一、さても浮世（うちゆ）や
小車（うぐるま）の
巡（みぐ）り巡りて新玉の

年経（とうした）ち替わて
春来れば松も千草も色そえて

梅も匂いて花を咲く
庭の青柳（あうやじ）糸たれて

山は霞て久方の空も長閑に
照る月も

二、光輝く四方（よも）の海
波も静かに吹く風も

枝をならさん此の御代に
山にかくれて住む人も

君に仕えん時を得て
花の都に皆出でて

山の奥には住家なし